京都から行ける

近江の山々

3　飯道山

史跡点在 歴史探訪に最適

飯道山（標高664メートル）は、湖南市と甲賀市にまたがる山である。山岳信仰の拠点として、古くから近江の大峰山とも呼ばれている。甲賀市の水口町と信楽町の山麓は社寺も多く点在し、歴史探訪するには絶好の地でもある。登山コースは数多くあり体力に応じて登山が楽しめる。

今回は鉄道を利用して登れるルートを案内する。JR草津線、信楽高原鉄道、近江鉄道水口・蒲生野線の貴生川駅で下車。商店街を通り国道307号へ出て、三本柳の貴生川小の横を通り、山麓にある飯道寺を目指す。

飯道寺はもと山上にあったが明治維新後の廃仏毀釈で廃寺となった。1892（明治25）年に法灯を継承したのが現在の飯道寺だ。寺の北側は樹齢600年のケヤキの巨木がある日吉神社である。寺から南へ進むと飯道山が遠望できる＝写真①。石の鳥居を右折して道標に従い進む。ここから三大寺林道だ。橋を渡ると獣害防止の立派なゲートがあり手動で扉をあけて入る。道幅は広く歩きやすいが、かなり傾斜はある。

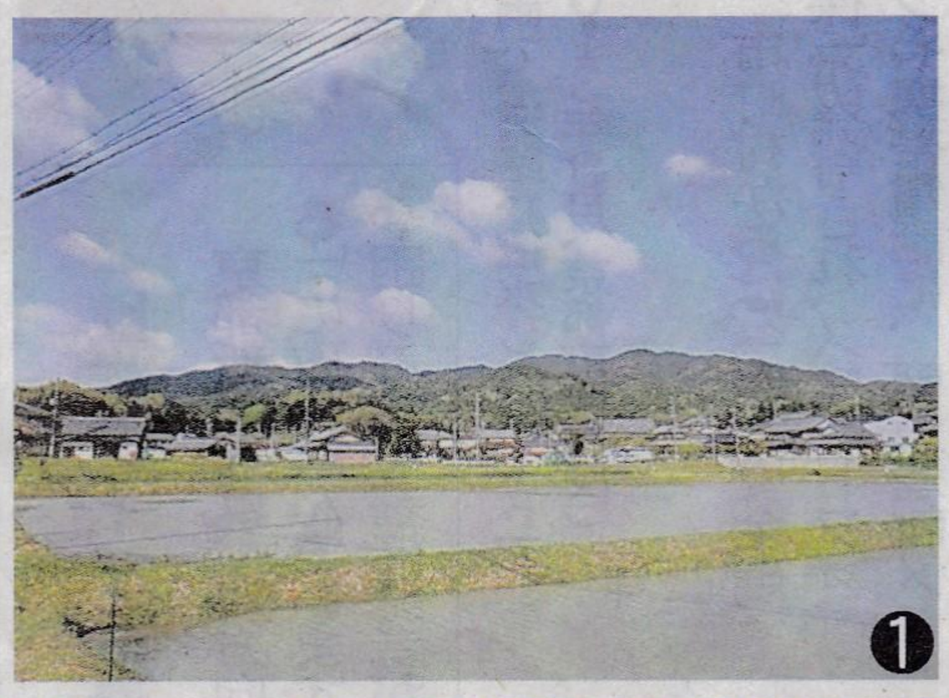
途中には右上に地蔵尊があり、しばらく林道を進めば、舗装された堂徳寺林道に出合う。この林道は傾斜も緩く、花崗岩の谷にはきれいな水が勢いよく流れている。しばらくすると飯道山休憩所だ。ソーラーパネルが設置された、立派なトイレもある。谷からの風と水音で癒やされる場所だ。左手階段には岩壺不動尊があり覗いてみたい。

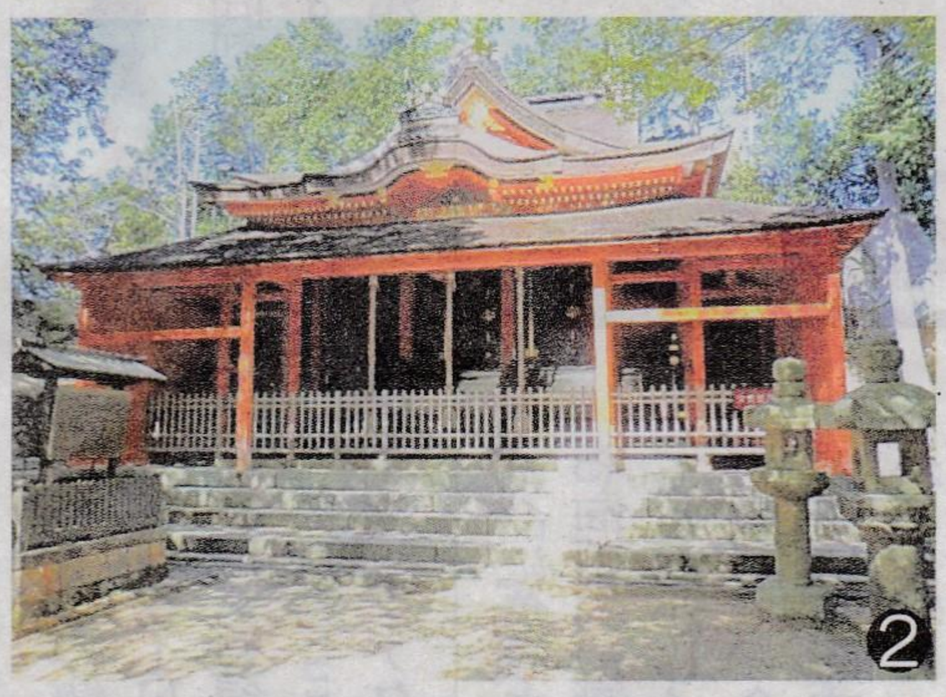
林道終点からは、岩石が道いっぱいに転がり「落石注意」の標識が見える。注意して歩こう。少し登ると、杖ノ権現休憩所に着く。ここからも飯道山は登れるが一休みして、砂利の林道を下って、厳かな飯道神社へと登る。飯道神社＝写真②＝は奈良時代の創建とされ、現在の本殿は1650（慶安3）年に再建。重要文化財である。神社からは今までとは趣の変わったササのある山道を、道標に従い山頂へ歩を進める。

視界が開けると山頂だ＝写真③。近江富士の三上山、湖南の山々、比良連峰の展望も楽しめる。下山は、往路の杖ノ権現休憩所へと急坂を下る。木々の根っこが多い道を足元に気を付けて慎重に下ろう。権現休憩所へ戻り、往路を貴生川駅へ引き返す。歩行時間の目安は約5時間30分、歩行距離約12キロ。

（日本山岳会京都・滋賀支部　幣内規男）

＝次回は7月14日掲載予定です


1


2

3

アクセス　JR草津線、信楽高原鉄道、近江鉄道水口・蒲生野線の貴生川駅下車。